

BARI CUP 2017～未来～ 【U-12】

■主催:愛知県サッカー協会、(株)今治/FC今治

■主幹:(株)今治、夢スポーツ/FC今治

■後援:愛媛県、今治市、愛媛県教育委員会、今治市教育委員会

■日程:平成29年8月24(木)、25日(金)

■会場:今治市営スポーツパークサッカー場/桜井海浜ふれあい広場サッカー場

■競技方法

20チーム参加、ブロックに分けて予選リーグを行い、順位によって順位決定戦を行う。

■試合結果 20チーム中6位

・予選リーグ 4戦4勝

① VS 大社FC(島根県) 3-2 ② VS 上海吉祥FC(中国) 2-0

③ VS 福山FC(広島県) 8-0 ④ VS 宮西SC(愛媛県) 4-0

・決勝トーナメント

① 1回戦 VS FC今治(愛媛県) 1-1 PK2-3

②2回戦 VS 今治トレセン(愛媛県) 3-1

③ 5位決定戦 VS 杭州绿城(中国) 1-2

■参加メンバー(6年トレセン)

監督		宮本 清志			協会	宇野 雅人、高山松鶴		
No	氏名	所属チーム	No	氏名	所属チーム	No	氏名	所属チーム
1	堀越 航	酒々井FC	5	仲宗根 秀哲	セレステ成田	9	野田 俊太郎	七栄FC
2	榊原 悠人	成田SSS	6	宮本 真汐	成田SSS	10	田口 来輝	セレステ成田
3	出口 眞玲	日吉台SC	7	小野寺 源斗	ボレイロ	11	小松崎 琉暉	酒々井FC
4	権谷 生喜	七栄FC	8	山田 悠仁	七栄FC	12	佐藤 叶	酒々井FC



BARI CUP 2017/8/23(水)～25(金) 大会総評

予選リーグ第1試合 成田選抜 3-2 大社FC(島根県) 得点者(ライキ 2、ナルキ 1)

酷暑の中の大会初戦、このチームの一番の課題でもあるスロースターターを払拭できませんでした。後半早い時間帯までに自分達の簡単なミスから 0-2 とされ、ようやく目が覚め反撃開始。思い切りのよい飛び出しからのゴールが、このチームの成長の可能性を感じさせてくれました。

予選リーグ第2試合 成田選抜 2-0 上海吉祥FC(中国) 得点者(ライキ 1、ナルキ 1)

ほとんどのメンバーが初めてとなる、海外のチームとの対戦。運動量も強さもある相手に怯まずに試合開始からプレー強度を高めることが出来たと思います。1対1で戦う姿勢、1対1に対するサポートの意識もようやく強くなってきました。

予選リーグ第3試合 成田選抜 8-0 福山FC(広島県) 得点者(ルキ 1、ナルキ 2、ライキ 2、マシオ 1、キョウ 2)

5年生や女子選手も出場していた相手チーム。ほとんどの選手のポジションを入れ替えながら試合を進め、最後までを緩めることなく戦い抜くことが出来ました。が、個人の技術のみに頼る場面が多く見られ、連携に不安が残る試合でした。

予選リーグ第4試合 成田選抜 4-0 宮西SS(愛媛県) 得点者(マレイ 2、シュンタロウ 1、マシオ 1)

押し込む時間が多い試合展開。タイミングの良いシュートやパスもありましたが、全体的にやはり個人プレーが目立ち、攻守の切り替えが遅く、簡単に縦に突破される場面に課題が見つかりました。

決勝トーナメント1回戦 成田選抜 1-1 PK2-3 FC今治(愛媛県) 得点者(シュンタロウ 1、PK ライキ、ユウジン)

「スロースターター」これに尽きる一戦でした。相手に簡単にシュートを打たせてしまう場面が多く、逆にこちらのシュートの場面では相手が最期までしっかりカラダを張って守る場面が多く見られました。自分達の意識の低さに気づくことができたことが唯一の収穫かもしれません。

決勝トーナメント2回戦 成田選抜 3-1 今治トレン(愛媛県) 得点者(ヒデアキ 1、ルキ 1、マレイ 1)

「自ら考え、自ら行動する」そんな当たり前のことをあらためて試合前に話して臨んだ一戦。前半なかなか思い通りに進まない展開、ベンチの選手達と問題点と修正点を考え話しながらポジションの入れ替えなどを実践。これが功を奏し、前への圧力を高め完勝。

決勝トーナメント5位決定戦 成田選抜 1-2 杭州绿城(中国) 得点者(マレイ 1)

二度目の海外チームとの対戦。相手選手の速さと強さに驚き、局面ごとに弱気なプレーが目立つ前半。徐々に盛り返すものの、個人で打開するだけでは難しい試合でした。カラダを張って全力でプレーが出来た選手とそうでなかった選手、個々の意識の差が浮き彫りになったまま完敗。

大会総評

対戦チームなどの「強い」や「巧い」に驚くだけで終わりにせず、その「強さ」を身につけよう。そのために今後はまず日々の生活や練習から「自発的に行動しよう。」と、シンプルな目標を再認識することが出来ました。 海外の選手やコーチとも徐々に積極的にとても明るく交流が出来ました。 この3日間で経験した貴重で特別な時間を家族やチームの仲間に伝えるところから、次の一歩に進もう。そう話して大会を終えました。